



今集巻六

六

特別
イ 4
3163
95(6)



貴
14
3163
95(6)



古今和歌集卷第十七巻終

雜歌上

歌まじり

よみ人しるは

日かうへりそ路ぞおくねる天の川とほるふゆけりのまじり

○ワレがうへ、コレをカラまがフツクルワ コレハナニデモ天ノ川ノ流レ船ノ

カイノオトデアロカイ

思ふぞらあ辰ちる夜まかしくふきまきまきしるたゆまがまら

○カウ心ノアフタドウレウチヨツテ居ル夜ハ 三名ツテイヌルノガノコリオホ

イモバデサゴサルワイ

うれしをあまつまむう衣袂ゆふふしめてしほし



○けつ^ハウレ^シイノヲ 何ニツミウゾ けやウナ 嬉^シイ^ニカアラウト^トツツ^テラ
キルモノ、袖ヲマソツト ユツクリト多テト云ウテアツタモノヲ けキツイウレ
レサガ コナセバイ袖ハ中ミツミレルコトデハナイ

かぎりおき^ニあが^リと^クあ^わと^をさ^るむ^の時^ノと^もさ^うぬ^もの^あぢ^のけ^りら^ら

○は^レ今^ノカギリモナイ君ニは目ニカケウトおぢ^テ折^リニスル花ハ カヤウニイツ
ト云時^ニは^レワカチモナレニ^ハクモ^ノデサ^ガゴザリニスライ 君^ノは^レ今^ノカギリモナイ
ユ^ニモ^ハ花^モ時^ニは^レノカギリナレニイツ^テモ^ハゴザリニス

あ^る人^のい^ちけ^りい^され^のお^わい^しち^ぎと^はまり

○お秋云こはまたの^ノ下^ノお^わき^とい^ふ三^字
お^ちる^るな^るべ^い

紫の一も^とゆ^えふ^むと^し世^はま^いみ^まぐ^らけ^りと^とぞ^えは

○武翁^ハ一本ノ紫ヲアレニ思フ^ニ ち^と縁^デ同^レレサレ世^中ノ善^ガ皆

ノコ^スア^レニサ^レハ^レル

妻^ノ妹^ヲ 妻^ニモツテ居ル人^ニ
絶^のお^とと^とけ^りて^は侍^る人^のお^のき^ぬを^おと^すて^よ

と^しや^りと^する ち^りひ^りけ^りた

む^らさ^にの^色を^さと^きハ^はえ^もと^るお^まね^るお^まぢ^のあ^ぢと^とぞ^らり^ら

○掃^者が妻^ヲ大切^ニお^もは^レバ ^三ソ^ノユ^カリ^ノ人^ハ誰^デモ^皆サ 妻^同カ^ニ

^五ワ^ケヘ^タテ^ナレ^ニ大^切ニ^おも^はル^ワイ

大^にお^もは^レぬ^らり^らけ^りと^ふつ^て乃^乃知^る事^おぢ^の中^に
お^もは^レる^時お^のお^のき^ぬの^あや^をお^く
お^とと^とよ^える 近^院お^のお^のち^ぎ

あつぎし月はくくしりやまのあまのあまてぎしりかひりや

○マダニタラヌノ二月ノカクレルソノ山ノフトデニテ居ル月ノ入ル山ノアチラウ
ラ入行テサ又ニタイワイ

さしふりたみこのかりーきささこおまうとてやどりあ
へてよむとよほのそ物流をーきさふ十一日お月もかく
きねせとささるそりおみと急しりー^{オクハ}うちへ^ハまなむとさ
くさぶととゆるる
おりしりのお信

あつぎくおまぎさきし月はくくしりやまのあまのあまてぎしりかひりや
○アノ月ハニダニタラヌニキツウ早ウアカクルコカナ アノ月ノ隠レル山ガワキニゲティン
テ月ヲ入テクレバヨイニ カウ云ノ八月ノバカリチヤナイゾエ

田村みくぞのほめお命院^{デアツタ}お信^タのききうきいことおみこと^母
いあやまらつとつしりー命院をかくまひー^ハくさ
さしりやまられはよある あまの教信

おまげておゆく月ーほり続をさうくせどもむるをきおくお
○おヲ照テイク月ガほイニヨツテ ナホ雲ガカクニテモトウレテモ 光ハキエハセヌサテ
おー^ハお信

おまげておゆく月ーほり続をさうくせどもむるをきおくお
○上 モトカラノ心ハナホウデモワスレラヌモノチヤ
いーへの野中おまらぬれどおれらるるをさうく人ぞくむ
○ムカレキツイツカウナ^ハ長あチヤト云テ名ノ^カカツタ中ノ^ハ長水ハ今ハモウ

てんじへいといふは、ほろいぬ物とハ、まき物とふまをて、身はこし

おしてや、難波のみ川、ふやく、ちのからりと、おを、老ふる、う卵

○上 ア、ハ、ナギナオレハニアキツウ年ガヨツタカナ

又、おや、と、れ、み、川、ハ、ま、る、べ、い

おろく、れ、い、び、と、ま、る、と、バ、門、さ、て、ほ、し、と、ま、へ、て、つ、り、ま、ま、

○は、老、ト、云、モノ、ガ、ホ、ウ、ト、云、ヲ、ト、ウ、カ、ラ、知、タ、ナ、ラ、門、ヲ、サ、レ、テ、オ、イ、テ

最、守、チ、ヤ、ト、云、テ、ま、る、ズ、ニ、居、ヤ、ウ、デ、ア、ツ、タ、モ、ノ、ヲ

は、三、つ、の、う、い、ま、る、を、ま、り、の、お、き、お、乃、よ、め、と、お、き

さ、う、さ、ぬ、小、年、を、ゆ、う、ま、び、り、も、何、い、ど、ま、る、よ、つ、ひ、や、ま、と、ふ、り、ま、と

○月、日、ガ、ド、ウ、ゾ、ア、サ、カ、サ、ニ、ア、ト、ヘ、ユ、テ、バ、ヨ、イ、ニ、ソ、レ、タ、ラ、何、ノ、モ、ナ、ウ、ツ、イ、タ、ツ、ア、ユ、ク

人、間、ノ、年、モ、ソ、ノ、月、日、ト、イ、ツ、ヨ、ニ、跡、ヘ、モ、ド、ツ、テ、又、若、ウ、タ、レ、テ、ア、フ、ウ、カ、ト、思、ハ、バ、サ

と、ろ、と、ろ、む、る、お、か、い、何、い、ま、る、年、月、日、あ、い、ま、あ、う、と、ま、る、い、ま、る、武

○月、日、ノ、タ、ツ、テ、ユ、ク、ノ、ハ、ト、リ、ト、メ、ラ、ル、物、デ、ナ、イ、バ、ド、ウ、モ、セ、ウ、ガ、ナ、サ、ニ

ア、ハ、レ、早、ウ、タ、ツ、タ、カ、ナ、ア、ハ、ウ、イ、コ、ト、ヤ、ト、云、テ、タ、テ、ユ、ク、チ、ヤ

と、め、何、い、ま、る、も、ろ、い、ま、る、れ、ろ、と、ま、る、と、つ、ま、お、く、ま、る、よ、つ、ひ、の

○ト、メ、ウ、ト、思、フ、テ、モ、ド、ウ、モ、ト、メ、ラ、レ、イ、デ、ハ、ヤ、ウ、ニ、ア、ヲ、シ、ム、ニ、レ、ラ、ヌ、カ、ホ、テ、心、ツ、ヨ

ウ、ズ、ガ、ノ、ト、年、ハ、マ、ル、テ、ユ、ク、カ、ヤ、ト、レ、ト、云、レ、ル、ハ、モ、ツ、ト、モ、ナ、カ、ヤ、ウ、イ

ト、レ、ト、云、ハ、早、イ、ト、云、ナ、バ、サ、チ、お、お、白、波、お、き、う、へ、い、一、日、ハ、ニ、と

と、お、お、い、ま、る、べ、い、と、ま、る、い、ま、る、

お、お、い、ま、る、い、ま、る、い、ま、る、い、ま、る、い、ま、る、い、ま、る、い、ま、る、い、ま、る、

○鏡山ト云山ナラ 人ノ親ガヨウウツルデアラウホドニ 久シウカツタ身ハ

^五年ガヨツタカト ^ニドレヤタチヨツテ足テユカウツ

此のあゝ人の心も ちよとけらけぬーがじ

おれむろろおれたけろの みるも是ふまゝ 結る時ふなりひ
らまづ久きまで時々も えまかりあつて 結るまじきまじき
^{ジブン}うらふまじきまじきのもをよるまじきまじき ^{キフナ用}のみまじきまじき
できまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき

おいぬまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき

○世中ノナラヒテ 世ヒトモノガレヌ別レモアルト云フナバ 年ヨツテハ 結ニ明日モシ

^{レバ}イヨク君ニドウゾをタイフカナ 上ニニ一と考ガシてんたべー

かたー けりむらね

世中にまゝぬまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき

○親ノ壽命ヲアハドウゾ千年モト親フ子ノタメニ 世中ニドウゾ ^{カガ}遁レヌ

別ト云フイイヤウニタイフカナ ^{おれえ人の子と云ハ親おむまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき}
^{人のあつてまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき}

寛政の時まじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき

ふちの八きゆりーまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき

○オレガ頭ハマア 雪ノイクヘモクツモツタヤウニツツ白ニナツテカヘスゾモ

キツイ年ノヨリヤウカナ

おれが時時へのまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじきまじき

わらふをへすかりや。さきさきもせし。ゆきをぬかす。ぬかすよ
えは
はるかに

ぬくもるといふもの。さきさきもせし。ゆきをぬかす。ぬかすよ

○雨が止ミヨツテ表ト云名ヲ程モレウ也テハ難波ノ田表ノ嶋ヲ今曰トホツテユテバ

取ノ名ハ表ナド 名ハ身ガ隠レヌモノデ 取フリノ名ハ又物デゴザルワイ

法皇御川 ハ内カアソバサレタ日 おおきくはるる日 法皇もあはれて

つよこゝ成 歌うてよ オヨセアソバサレタ ませ 結ひらる

わくわくのいふる河べを。吹風うよきてうつくぬ浪うとぞ見ゆ

○川ノ冬ニ白ク鶴ノ立ニ井ルヲワレハ風ガイテヨセタ辰ノカニニアルカトサレタ

み秋云きてて何いづとら白き鶴をいつり。さきさき花のほきふよけり名じ

あはれも白鶴と何なり。おれおれとさきさき考へわり。

中勢はみとけ家のゆり 船をつらりておろしとめて
わきびらる日 法皇侍らんじ おおきくまゝとさきさき
なまわりつらりかたりおろしとさきさきとさきさきと
ていふて侍川にさきさき 伊勢

あはれも白鶴と何なり。おれおれとさきさき考へわり。

○君ガ水上ニウイテアル船デアラセラレウナラ コガ船ノ泊リニスルデサゴヤ

リニストヤレテオヨヒハ法皇メヤニセウモノヲ み秋云けあしおれさきさき

かゝるるいふ事よれあ。 さきさき法師

みやとさきさきかゝるるかゝるる法の法をさきさき風をさきさき

○京にて坐て名ノトツテアルを琴ト云取ヲ持テ見レバ 風ガフチバ浪ガ立テ音
ガスル スレヤケカラ琴ヲハ 浪ノ糸ヲステテ風ガサシノチヤロイ

布引のよれをよめ 左京行末朝臣

こきちりしききおまひろひおきてきけり時乃後よりかからぬ

○此浪ヲ見レバ水ノトツテ走ルノガテウド玉ヲ緒カラコキチラスヤウナガ け玉ヲ

ヒロウテオイト借リヌ ツシテワレガ身ノウノカウニウイ此岸ノ浪ニセウナズル

布ぢきお波のちよしにてんつまつりてちよみ

お時よめ ありひらの船長

ぬきみづるんをわししおまぬまぬくとちりし波のきをけりお

○^五けニアセハイ袖ヘツシレモセヌホド 玉ガアヒナニニゲウニアチツテクルカチ

コハナデモ ツナイテアル玉ヲ 誰ゾ緒ヲトイテバラクニシテ け浪ノ上ノカカ
ラチラス人ガサアルサウチ

よりの浪を見てあり 兼均法師

くぐくめふけてはくき。布おきやうけへるはねをる人もちよき

○アノヒツハツテサラレテアル布ハ 誰ガキモノニル布ヂヤカ ツトニカタカラ

ニルガイツニテモソノマデアツテ トリイル人モナイ

浪をよめち布やしてよめし。波あるニちよも何ト。

歌しらむ 神よめ法師

浪のききのきりあつてふかごもあてきやうけ

○け浪のしれにニツツ浪ハトニト白イ糸チヤ け糸ヲツテタニトタテ 山ヲア

ル時ノ衣ヲ織テ着ヤニ 法勝ノ法イ糸ナヤ 出家ノ山アキリ衣ニヨカワサテ

新門ノゆるいで勝のちとてよめ。

いせ

しゆらぬをぬきぬきし人もおき相をたふしむめは布さうはくむ

○夕チモヌイモセヌ衣ヲ著タト云昔ノ仙人モ今ハ居モセヌニ ナノ夕ヌニ

山姫ノアノヤウニ布ヲサラシナサルヤラ

朱雀院のみくぢ布灯乃勝はらむせむとてふむ月

のあぬは日あそしゆしてあたる時ふまやふ人ふう

よめせ給ひるふよめる あらむはあがむと

ぬーなうていしとる布灯はあそふぬうはるやうさうさうし

○ヌレモナウテサラシテアルアノ布ヲ オレガ物デハナケレド ヌレガナケレバ オレガ

心デ ナチバタニ借テ進ゼウカイ 今日ハ七夕チヤニ

むえはしあるおとをたしあきいえてらある

あみ

あらはつ勝のちあみあつりて老ふまじしあまきまらほし

○夕チツテ為ルアノ勝ノミナカミガ 久レウチツテ年ガヨツタサチワナ 皆白髪ハツ

カレテ黒イ節ハ一スチモノイ カウチハミナカミヲ髪ニシテチヤソエサウヤエルカノ

おまじ勝をよめる みつね

風ゆけどさあもゆぬをハト仰へしあがるあまがさうら

○雲ハ風ガチバはくヨソハウツニユクモノチヤカ 風ガイテモ同じ取ヲサラスニ イツデ

モロシヤウニアルアノ白雲トモテハ 昔カラモル勝ノモデサゴザルワイ

田村の時時より如くはさかしくひかしては屏風の志法
らしむべきに勝おらうらうらうらうらおわらうらこれ
を歌うてうらよととさかしくぬらんおちせうらとを
とばよめる

三條の町

思ひきくらん乃うちねしめきおとやおつとへんれどきねめしぬ

○人ノ世ヲヨシテ隠シテ居リニル心内ハ勝ノヤウニワキカクニル物デゴザリニルカハ

繪ノ勝ハサウ心内ノ勝ヲカ致シニテ 勝トハ見エエド 子カラ音ガ世ニセヌ

屏風の絵うる花をよめる つらんゆき

鳴る鳥の時より後をうちまへて昔のまねおとやもねつらねぬ

○暎ソメ々時カラシテハ ウチツバイテ昔ノ中ハイツ、モ春チヤカシテ 此花ハ

色がジャウヂウオナシレフヂヤ

候風はあゝりよと合をてかきこき

坂上ころこのり

かゝてほきを山田乃ソ祿のこねとしてねきアそほき秋のうきとバ

○オレハ秋ガツライニヨツテ 一ニ 叶ヤウニヒタクト候ヲ流シテ泣テサクラスワイ

かりてふ雁をこえて下向の縁とをり

古今和歌集卷第十八巻鏡

雜歌下

歌うらば

よみ人ーらむ

昔申いたふうつらねる河を川まのふの淵ぞりふちぬふる

○世中テ何カモカラヌ物ヤゾア飛多川ヲ見レバ昨日テ淵テアツヌ取

ガサ 今日モウ浅イ淵ニル川ササウチヤ スヤナテモカラヌ物ト云ハナイ

いくよの色何じぬあはるもかへりあはるるとふあひみでう

○モウ生テ居ルアヒダモ何ホドモアルミイ此身ヲ 海士ノ川ル藻ノ乱レヌヤ

ウニナゼニオレハニア此ヤウニドウカウトイロクニ苦勞ニ思ウゾモウワツ

カノるナレヤトウテモカウテモヨイフチヤニ

居たりる者の船旁をれどのこかむいつきせぬよの舟はうそ

○一二 心ゾル時モナレニ常住也ヒゴトツキルト云フモナイ け世中ノツチヤノ

小笠とうむくの船長

ちうとそしてむく横をりに事しわとばまづ歎うとぬあふうよの中

○サウチヤト云テノガレモセヌ中チヤニ ナゾト云トニツア、ウイ中

ヤト云テナゲカル、

かひのうゑに結るるそれ糸へまわりのむくもきる人

ほろりーきる

をのりらむ

糸へまわりのむくもきる人 糸へまわりのむくもきる人 糸へまわりのむくもきる人 糸へまわりのむくもきる人

よふゆきとばうとさうさうまきまき
のの思のかけさあをなしてむ

○世間ニカウシテ居バ 次オニウイツライババカリニシテクルニ 一日モ早ウ吉

世ノ難^{イシ}取ナ山ノオクヘヒツコモラウゾヤレクイヤナ世中ヤ

いっねむいっねむ中おとむはよめうたのすけまきうえさうむ

○ドヤウナ依イ山ノ中ニスミナラ け世るノウイマガキコエテコヌデアラウゾ

とべてやういふ中といふは皆いふ思のくらめらねのより

あして保き心の中はいついふまゝ思慮の肉をいふもいふは

あひきれ心乃まふくからとをむいさ中ハあるかひもなり

○山ノオクヘトコニテナリカクレウゾ けヤウナウイ中ニハ住テ居ルセシモナイ

よの中はうきふあきぬおく心乃このもふふるゆきやきをまはし

○世中ノウイマニアキハテモ 五^ウウトコニテナリ^四ユキグニ奥山ヘカクレウカニラヌ

おまむいぬきあ ともへのあしね

そけうき免及ぬ心路へいひふはあ人々をほごりあわらさ

○世中ノウイマヲ見モ^アモセヌ^セ又山中ヘハイツテ住ウト思フニハ ドウモ思ステラ

又人がアツテソレサツチガレルワイ

心乃あういれもとへはうりき

元何の躬恒

よ波をてふりいり人山うてもあやうにさきいづちゆらむ

○^コ坊振モ山ニオスミヒヤガソウタイ 世がウイト云テステ、ニミウテ山ヘハイツ

夕人が山ニスミテモソレモニギヤハリウイ時ニハ トチヘイクフヤリ^{らん}マセヌ

おぼいさの時いともおきろく減えてよき。

いふちゝおほおしつゝそけけのうにけしききよらちちや

○け子ハアノイニサラナゼニ生レテキタコヤラ 何ニツテモけヤウニウイニオホイ世

チャトハニラヌカヤイ

歌うゝぞ

よき人しらぬ

よふゆきばらぬ葉もまじはる竹のうまふーごふうぐひもそぢなく

○云ニアレバナシカノト人ニイロく 三 ウイニライハルコガ多ウテサソノ成ゴトニ

うぐひま

泣ス

。お秋云。結句。そのこゝろ
よきなくとよまじ

おふとけしはるあもあゝぬけけよのほしふおきなりぬべらし

○ワレハホテモナレヌデモナイ竹ノヤウテ トチヌモツカヌ物ニナテアフラウヤウニハル

あき人乃心くゝるうのこけうとあき

こがゆかゝうによのあうと款きつ人のあさへうけしけし

○ナジフナ身ハ ツツサテモウイ世中カチくと款イテ ソレ人ノタメニテ世中ガ悲レウ

セフテヤエルガ けヤウニ世中ノウイノハ お身カラコトコソアレ 人ハソヤウニモアルニ

下ドウ云フデ人ノタメニテカナレウセフテヤエ、コヤラ 飯材とがアリ

おきけおりけがされてけり。とまふよめ。

しゅうひの物だ

思ひきやむあけさう控おそろへく海士の繩 法編とぎいそりせむとハ

○遠イ井ナカへ別ニテオチ居テ けヤウニオチフテ 猿原オノスルゴトラニアセウトハ

セフテカイ おモヨラナシコトヤ

。お秋云。ちのくま。ハ。繩とがり。細繩。約。繩。あ。と。ち
く。お。き。と。る。を。し。が。り。と。る。と。い。ふ。

田村傳時お事おわたりては、おのともといふ所
おこもり侍りふまのうちに侍り人よつかりきり

在系新二お新長

あらしむ留ふらふ人あつば次二の浦おも急不しつらごころへよ

○京テ身ガ子ヲ誰モ問テクル人ハアルイケレモレモセント問テクル人モアツタ

エバ 身ハ次ニハ浦デ海士ノスレゴトヲヒテ五キツウ難義ヲヒテ居ルト云テ下サレ

を近ノ友ヲメニテテラレタル相監 ちきり侍り時ふ女乃らあつひふおこせしり

る近ノ友ヲメニテテラレタルゆふとてきりるをのくもあうぜ

何何もごこれきつしとぞ今ハ思ふあう人々と身解しゆるきふ

○ワタレモ所及ビノトホリノ仕合せデ 夕ウワク被ヒテ 衆身デハナイカト存ズル

時節ニ カヤ之材訪下サレバ 今テハモウハヤ 天人ノ依る子下サレヤウニサなジ

ニスル サテハ依依切ナヨウコソ依る子下サレタレ 何まきといふ上の人をい

へは相傳どもふらまかきとらり 餘材打中ふ心差とほどき説く

あかあつとこ道ハ言より 深きしきききなることも有しおや衆中

者く此もあふ心差のる依あまごことより 但し知はかへ後

おやの家へ侍りたるあつとらきりさハいふまればはあハ心差小

を何らばうとらり ねきりへへおいわやまることおりき

はうささき侍り時よめる 卒らふゆん

うねよあを門させりともんしきふなごり、衆身はいでかてふさる

○オレハ門ヲサシテ出入セヌヤウニモ見セヌニ ナゼニ我身ノタメニハ五ウイ世中デ五世ニ

出ヌコゾイ

袖白の白のなむり下ふろしそそおぐそ

を打ひおふおぬるすくとつふらうーこまの宿をさうぬくはつきくお
なりおぐそきささぬうーおふささおぐそとよあるし

つらとてぬ命すうまねどぐうらるすきぐーおそびもか那

○イツニデモ生テ居ル命デハナイ オツケ死ヌルヲ待ツツカノ間チヤニ ニセメテソノ間チヤ

トモドウツレヤウニツライ苦勞ノオホウナイヤウニシタイモノチヤ

みこねまねしちらふきふけりやつ久ほくまうくげとそ

ときてけりおふよある みやぶねきよに

法くを縁乃出の本ごとくおちそよるまねみやらの法をこひつ

○筑波山ノキツウレゲツテアルヤウニ下ハダガミノ体イ春宮ノ法薩ヲ以上ナガラドウゾト

頼ミをツテハヒタスラ其場所ニヨリオシタイヤニニスル 信林上のもの説

ハブリノヨカツタ人ノ 時たりきく人のおそふ時ありおりて歎くをえてこづ

かゝれるがきもねくよほるびもねきこぬおしてけり

法ふぬりやぶ

光ねきおろいハまるとよをねとば嘆てそくしるお思ひもあ

○日ノ光ノアタラヌ谷デハ 春モヨソノ子デ 花ノサクコモナケレバ ソノカハリニ

又 早ウ花ガチツテ惜イ思ヒモナイヤウナモノデ オレガヤウニ本カラ花モサカヌ

身ハ 人ノ今ヌノヤウナ歎キモナケレバ ケツクコレモニシカヤ

かつふけりる時うー七條中宮とつせ給ありきりし

おとてまつりたる 伊勢か

とび人乃きむべきをどくするをへふ款きくそふ知りたきぞさる
 ○け家ハナシラ人ノ住ムヤウチ家チヤガトニハソソシテ又ソ款キソフ琴ヲ考ガサスル
 ちりきふまうづるさきにありた系おやどわりりるるに
 よきる
 二條

人ありは星をいひしこころかども好くはみやともうに名ありりる
 ○系ハ人ノワレヲフイ物ニシテニステタ取チヤヨツテイヤニシテ出テキメナレ
 け奈良ノ都モフサト、云ナレバ 同ジクフイ物ニ思ハレルツライ名チヤワイ
 類きく文
 よし人きく文

ら中ハいつとりありてこが好くきゆきさあさきやどく定むる
 ○モノゴト定メナイけ世中テハイツノドノ家がコレト云テ定ツヌワカ家テ

アラウツ定ツヌフナイ ドコテアラウガイキトツヌ取ヲサ オハ家チヤトシテ居ル
 道坂乃つろくしは風ハきけきどゆくきく極バるびつとぬぬ家

○け相坂山ハキツウ嵐ガチテ夜ハ寒イニ取ヲカヘテドコヘイタト云テモ サキ
 ガ又ドヤウニアラウヤラレシバ ナキナカラムニシテコニサカウレテ麻チスル
 風のうろつろつろはぬぬちりたは身ハゆくへもきくはありぬべら
 ○ドコト云フナレニ風ニキアテアルク塵ノヤチ何ニモナイけ身ハ テドソソ
 塵ノヤウニチサキハドコトウチテユカウヤラレシヌヤウニ思ハレル
 家減るるとよきる 伊勢

あき川あちふもつろぬさやともせふりりゆく物おどろるる
 ○アスカ川ノ澗コソ澗ニカル物チヤトツ及ニテ居レソノ飛き川ノ澗デモ

ナイワレが家モ 不仕合ナ時第ニナレバ 漱ニカッテユク物チヤワイ 漱ニト
云ノハ ソレアノオアレノサガテニカエ

つらふぢりる時ふまかりみひつごうちきる人のせふ糸に
うりちきできてきりりる まの友のり

ぬるもえーごも色けいびきのえぢららー取ぢぢーかりりる

○京ハコキヤクナガラ久シブルテモトツテニスレバ 何れモキツウモヤウガカハツテ

先年ノヤウモナウテ さら又取へ糸ツメヤウニコザル ソレモも取ト毎夜其若ク
ウツテ何れモワレテ面白ウクラタ 糸許ガサニウゴザルワイナ

女ととぢらと物ぢらりしてとやきて後ふつらりー糸

みらの〜

あらぢりー裡ノ中ふや入ふまむこが〜ぬ〜ひのなきこ〜ちぢらる

○ワレガヌレヒハ オノコリオホウぢテ別レニシタオヘノ袖ノ中ヘハイツテ

アナタニトツテアルカぢぢニセヌ サウカレテ アタタカラぬリニシテカラ トット

ワレハオヘノハカリトフテウカ〜ト絞シテ ヌレヒガコニハナイヤウナコロモチ

テゴザリニス

寔判事官時任り〜ぬ〜こ〜ぢらら〜んふぢらされてぢり

り時ふ糸糸のさ〜ひる〜そのとと〜け〜ん〜つ

いてふよ〜ぢらる ぬら〜ぢらら〜ぢらら

なよ竹ぢよ長〜へふ糸ぢらら〜かきぬてものぢらら〜あ〜ら〜ら

○け五節子 夜ハ長シ 竹ノウハヤ初霜モオイテ寒イニ 寐子モセズニオキテ

居テ遠イ別レ物思ヒラスルヲカナ

け遣唐使ハ扶桑畧記

小寛平六年八月廿日おき詔ましむるに... 彦のふりまへべし。

歌一らむと

よみびとくちうと

風ゆきばおき川も流し山よもふや君がむらりるむ

○一ニ アノ立田山ヲ夜ガ子テカラ君ガヌツタオヒトリコエテは出ササレテアラ

ウカサテモクアジラレフカナ

立田山の事。ササオ或人のまへへも流

よ流し。但し立田川ハおのこ別ふ考へる。

千載云け立田川の師の考。おのこ
まの一のま。又二のまおのこ。

あゝ人けまむり。大和玉のりる人のむさめあわらんま

とらりま。け女あやまのりりてあまもろくおちゆくわ

いどけ男あちねふ人をうひまてかよひつつかとやうふ

大和の女ハ

のこねりゆきりちるはれどもほろげちるきりきと

そでわかちへいくごふ男ねん乃ぶくはいつらじ

やアツ控ばあやとせめてもねまふあまもや

あまごごごひて月のおもろくろりるあちへいく

まのふてせんま乃中ふうとて足々まあふら

まで琴波うねあしつうちあきて此身をよみこ

祢りうねをこまけきうてまことり又あへんまか

らばあひふらととなむひつらへ

ふがみまげゆあはまざりりか衣もけとねふそりまへてねく

○三 け立田山ニ 誰^{ミヤキ}襖ヲシテ分ニテオイタをもちヤカ ^{ミヤカ}サキカラヒキツ

ツイテ久シウ鳴

本録身志の説録材を修し。

〇人ハドウナラウヤラ ^三ユクサキレシ又モノナガ 後ニモシ人ニ忘レラレタ時ニ

コレヲニテヒガセト也ウテサ ^{イッビゲンニ} けをリニ物ヲカイテ手跡ヲノコシテオキニス

名親湯時美柴集ハソノ ^{イッビゲンニ} をかりつらざるぞとく ^{イッビゲンニ} せ給ひ
はまばよみてなかりる。 ぬしやのあをいそふ

かえり月時美ありおるなるは ^{イッビゲンニ} その名ふあふまは ^{イッビゲンニ} ありおるを ^{イッビゲンニ} ころ続

〇上 ^五コレハ奈良ノ宮ノは時代ノ古イ書デゴザリニス 又ハ奈良ノ宮ノ

伊時代ニ古イヲ集メタトヤス 集 ^{シラ}ガサ ^五ける兼集デゴザリニス

なるの集は名ふあふとハ ^{イッビゲンニ} 櫛の集は名ふつきて ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと

と ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと

宛あはれ時 ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと

大いあま

何 ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと

〇世 ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと

ス ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと

物 ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと

人 ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと

〇人 ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと

上 ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと ^{イッビゲンニ} ころと

おまへがと	<small>ボンブノ身ナレバ</small> えぶね身なれば	なややふじ	おまへハふり
何一川乃	山崎さあ乃	こがらとて	くまき川んを
くまふも	あひうさうりき	をもふいでば	<small>人カシラヤウニ思ハレニヨシテ</small> 人ちりぬぞと
きみぞめは	<small>セシカメナサニ</small> ゆふべおねこば	おそろおて	<small>アハレアハレト</small> わらわしく
なまきつり	きんはへるふ	をりおて	くらやまへを
さろふへ乃	衣乃そぞり	おくさ乃	きねをきなべく
あか(ごも	程きげさぬ	まがらみ	よまふも人り
何も程と思へむ			

ゆるうさなりし時のもくろくはまのあがう

はくゆき

ちややめ	神の代り	くさけの	よふもくさ
あふきの	き羽乃やまの	まがらみ	あひみづこ
さきどれの	さうもさうふ	まよゆけて	くらとまき
形くごら	しんせとねさう	かろふき	くまのら
もみぢ紫を	えてのまきの	神さげき	さげこして
そめね乃	なもさうふ	あさね	程きえうり
うごごふ	それふけつ	あつとふ	あつとふ
まをのそ	み代よといふ	まね人乃	あひさねが
ふどの縁の	ももさひも	わらわして	まがらみ
ゆづらも	おまらうら	やちらさ乃	まね紫ごら

せへらぎの おおせかーこま まれくね 中ふはくそと
 いせの海の 浦乃しあひ ちろひあつせ とねととそれど
 しあねを乃 みどねらうら ちいあんと ねんけうしあの
 年頃へく ちまうりのこ ちさかたね ひるゆるねと
 けふふくそ かつりこもきぬ じがねどろ ながまおある
 けふけうこ ちまきあね ねとやあねくむ
 ふうにくとへくそまよつとるあぐう
 壬生、たき

くの竹乃 よねあつこ なるとまば いうちのねま乃
 けふふくそ おもあろろま のむえまー けふねむくへ

アツタトイフ あつたてふ	人たあつそま	大ぢはナリナレ うねりな	オハもねが
えの葉あは	あまうえま	まこしわげ	まゑのそまでの
けうねい	今もおおせ乃	くごまあち	ちろふつぎそや
ちろねあふ	つとるこま	ちろくそ	こまとおまを
いけへも	ちまきぎせ	まごもの	ちろふほえまむ
こくちし	ちねあまけも	おりあしげ	ちろけいこらご
ほろしき	かくいあせご	てねむうと	ちろねまをの
あねりし	ちまうは秋乃	くかさう	けふむきあて
みつきよふ	ちまへもあ	ちかきまを	まをくそくも
あまあしむ	このうまあ	申あてち	あじしの色

きうげりき	今の世心	ちうきせき	春ハを展
もねむい	まはうつき	ねきくし	秋を時
禮をかく	冬を暮	せきうほ	かきむび
舟がくふ	はむる年	あきき	いつのむつ
あさふり	こまふ	らう	おい乃
ヨナイニナツタレバ	やうき	らう	あはれ
やうき	おはい	らう	あはれ
かく	なが	あはれ	あはれ
わ川	あはれ	あはれ	あはれ
き	う	あはれ	あはれ
ね	あ	あはれ	あはれ

くまりとの 君が八代を こころえつてんむ

やよきせづく今の世は物の多き世よき世と云うをさし
 こころよき世餘計な事考うるも世を先ほど物ハハ
 ちえねるべし館村の佛足石の夜と都も是しよきといふ
 ちやを累きしげやよき世を弥過まばといふ説むがてし数乃
 ちやといふもまぐもらげ又打せおまきこころえむいふ世
 君が代りりやね山乃いふこころえむいふ世

○カヤウナアリガタイ君ノ世ニアウ時節モアルモノヲ 今ニテハタビヒタス
 ラウツモレテ居ルトバツカリ思フタヨアウナフカナ

冬のあるがう 元何内躬恒

ちちやぶら 神を月やちや くらりりち くらりりち
 うらちぶら ぬ葉をよとふ あらちぶら うれしむらぶら
 ふあじも ぎく日ごふ けりゆけむ ぬれをよきて
 らまらじし あらけらぶら ぬれこあり いやうさぬる
 をのむら むらうらむら ちちぶら うらぶらむら
 ちちぶら けりむら けりむら 年頃あむら
 らぐらぶら

七條、后、世、終、い、ら、の、ち、お、よ、と、き、

停勢

おき川は あきのよきま ぬれちちい ぬへてきみ

いせの海まも 船をぐらうら くらうら くらうら
 うらうら 後のつらら くらうら くらうら
 らうら 秋のむらむら ぬれむら ぬれむら
 らうら けりけり ぬれむら ぬれむら
 らうら ぬれむら ぬれむら ぬれむら
 らうら ぬれむら ぬれむら ぬれむら

旋頭歌

ぬらうらむら よみんあらむら

うらむらをちちのうらうら ぬれむらむらむら。そのそとふあうらむら
 ちちあむらむらむら

○ウチノワタスアチノカノ人ニワレハ物トヒニヨソソソニマテアル白イ花ハナノ花
テヨガルゾニアサテモ足ヲナ花ヤ 打後をハズクをこそしおちあけ例等然

かへー

よきさとし^後バ^届せどべりまがきく足まどつらぬ花。まひるトふくかぬ
のぶきさとし名あるとや

○コレハ春ニナレバ野ヘニツ一畝ガケニサク花デ 足テモク足アカヌ花デゴガルガ

其名ハ何ゾツカサレ子バドウモナサレヌ タビデヤノサウナヤスイ花ヤゴガ

ラヌヘくヘく

。お秋云まひとハ人ノ物を贈るをいふ。
今後おつあまひまひハウキウキ

歌うらぶ

ちのせ川あま川のべふ二本つら杉年伐へく又もつらひんむ

ニセヤつら杉

○上 年ガツテ後ニモき子テ又ハ目ニカラウ 上三夕ハ年をへての序

おや又稻掛、ちよがいろく。上を又といふ序し二本つら本の

岐のさふつべきとらじ。

序くゆき

そがさみみくをけ山乃もみぢ紫花の色かきお月志ぐとけ五の
そまゝおつらつら

○一 三笠山ノお紫ノ色ハ ドウシテアノヤウナヨイ色ニナツタカト思ヘバ

シグレノ雨がシミツイテ 染ツタチヤワイ そえるハ、そくしうとくとい

ふきこし、後云ふそむるこそそめるとつらとハ異なり

誹諧歌

鶯一うぐ

よみ人一うぐ

梅、花見ふりき来つせうぐいさの人くくといさひーとをき。

○梅の花ヲ見ニキタノデコソアレ ドウモスルテハナイニナゼニヤラ書ガ人カ
クル人がクルト唱テ人ノ来ルライヤガツテア居ル

素性法師

山吹の花の海づらとぬーやとささどらうとささくらあしうて

○山吹ノ花ノ色ノ衣ハヌシハ誰ヂヤトトヘヒヘンジセヌ 山吹ハ梅ツチノ子
ノ色テロカチナイニヨツテサ

藤原敏行朝臣

つくぐくめ田をつらさばうほろぎんたでの田も海船をくよぶ

○ドレホドノ田ヲ作ルトテ時々ハアヤウニシテクササヲ毎朝クヨブゾ

七月六日とねぞとねろく海をよそろ

藤原の孫をき

しんくくまうくむをを泥ふ何ぞてたの川系をくや海をむ

○今日ハ六日ナバ 天ノ川ハ明日ワタルヤケレヒ 牽牛ガケイツカクト待チ

カ子テ居ル心ヲ 織ミタナタ女ニ見セウタメニ 今日渡ラウカシラヌ

人お抱さかくと破りし足さるる所 花の泥ふを泥ふあぐとつあこの
五一ねるべし 古佐日記いづもそまこいげあてハ結るびもらんを
足さむとめふ七日ふるるべきを六日にふるんといふてして寝ハキをか

のほろほろとまて雅言さうふちおれまふのかづらひてハカク
抱きかゝりて用ひるまふ遠くまふまふまふまふまふまふまふ
ひまゝゆるやうま他の例どとを引合せてよく考へてうべき

寛政の時まふのまはる合はる 在ふまひやあ

秋風よりほろほろびぬしなむらぬつてまきりぐくをぬく

○菘袴が秋風デホロビクササチ ソノホロビラツクリサセくトエテキリぐスガナク

あまきくくむくくく日とわたりぬあ乃くくくく風は

雪は吹くくくくをるてそのまわりへよみくくつらくく

まよくくはふりやあ

をぬぐくまはらぬおはちくきれば中垣らりぞ花とちりきるあ

○マダマナレド モウ明日春がメツ今日デ 近イ春ノトナリチヤニヨツテ サカヒ
ノ垣ノ又カラサソノ喜ノ花がチツテクルワイ

歌くくく

よもくくく

いそはくくぬりふくくぬ乃沖まびてくくあふあいつを福くく

○何デモ年久レウナレバ 沖ノヤウニ性ガ入ルモノヤガ オレガ志モ年久レウナツ

タユエ性ガ入ッテソノ志ガタツテ オレハサ夜ルモエ子ムラヌ

枕より跡らるゝ志乃せえらるゝばきむくくおとぞろくおふみまは

○オレハ夜ル子テ居ルノニ 枕ノ方カラモ跡ノ方カラモ 両方カラニキリニ志ト

云鬼メガせメヨセテクルニヨツテ 跡へモヨラズサキへモヨラズ トウモシヤウガ

ナサニ 床ノニ中ニサガイト 紀テ居ル

まふハ 跡らるゝ

若菜ハ誰チモツム物チヤワナテ ツミテ又タイトハ ツメラテ又タイト云フヤゾエ
あ菜といふを。老う人のあきを好むさふるはらう。まことなり。

影—うらむ
よみ人—うらむ

思へども程—あまぬ 春がさるとか いらぬ心乃 何とぞとおまを

○ワレガ思ウ人ハキツイ性^性ワルナレバ ちかへカリアルイテ テウド春ノ霞ノ
ドコノ山ヘモカレコノ山ヘモカ、ラ又所ハナイヤウナモノデアラウト也^也ハ 也ヒナ
ガラモヤツハリウトクレイ心モチカスル

平貞文

春の野はさつきあふれ乃 けふさびしう 雑のほうくさぞゆく

○一二 オレハ女ヲ也フ也ヒガシゲウテ 四 ホロクトサ^{ホロク}泣^泣ニス

上句ハ春の野はさあきのどく。さつきあふれ乃。さあきのつま
づきふるふさひなり。おやう。あはれ。うらむ。はらう。

まのよ—む

秋の野へり 春あき 兼は 年次へり ねむりが 意乃 かつひよを たのく

○毎年^ニく 秋ノ野デ 春ノアリモセ又兼ガ 意^イカヒヨクトサナクガ アレハ
ドウレタ^イフヤゾ 兼ニアフタラバコソ 意ノカヒガアルトハ 鳴ウコナレ 兼ノナイノニ
意ノカヒヨト 鳴ウコズハナイニ けち下句は てもをのす。なぞと
切て。志のこふえべ。又何のあか猪ニの志の終ふいつとも。この足やうじ。

みつ

春乃 ねのひとあうを ねえ 衣あき ばよと ねせ ねふ やを 何とぬ

○思ウくト云ノモ ワレバカリヲ思ウノナレヤ あつまき ソレヨイガ いづや イヤモウ 面白ウナ

イ、も人ノ心ハ大麻オホスサデサ し手ガ多クバドウモ

あはれ思ふ人をおもをぬむくいやさかあ人のあをおもをぬ

○ワレヲ思フテクル人ヲ ヲチカラワレガ思フテヤラヌ ムタイカレテ ワレガ思フ人

ガワレヲスツキリ思フテクレヌ

一々 ぬうやぢ

思ひ多き人をぞとふ思はまゝはまゝやむくいなかりとまりやハ

○二カタ誰ゾオレヲ思フ人ガアツタデアラウ けん 其時ニコチカラモも人ヲ思ウテヤレバサ

ヨカツタニ コチカラハ思ハナシダテ ソノムタイガキテ 今オレガ思フ人ガ オレヲ思フテクレヌ

アハアランシヌトヤノ ムタイト云フハナイトカイ キツトアルトチヤワイノ

一々 よき人トら文

出てゆく人をぞおもむくやむきふとむりけうとふをねもむぬう那

○出テイナウトスル人ヲ ドモよ思ウシカタガナイニ ドウゾ今 キンビョトナリ 近所隣ナリ デタレナリト

クサメヲスレバヨイニ 耳ノカウエトキニハクサメヲスル人モナイトカナ

くさあおふそ先ーんもねよとび人をあくふうつとふねり

○涼ウ思ウノモドウモねミニハナラヌ 今人ヲアイテクレバ ドノヤウニ涼カツ

タ心テモカハルチヤ ね灰汁アハふうををもて 河をまてしり

ふとつとくさかオハ喜の約多後やせがひうてふをねちとてつる

○人ニキラハル、ワレガ身ハ春ノ駒カレテ テウド喜ノコ口駒ヲ野カ飼ガテラ

ニハナレテヤツテカマズニオクヤウニ ワレヲ見ステ、子カラカマハヌ

うぐいそれぞのやざりれあもそや 疾う一人のつとぬりうらむ
○ワレニ人ノツナイノハ 一ニ フルイ物ニシテシウテノカニラヌ

上ニウハハ^ハのつとぬのし^ハ打^ハめ^ハぬ^ハもの^ハと^ハつ^ハハ^ハ。
さ^ハか^ハー^ハら^ハふ^ハま^ハ人^ハの^ハさ^ハく^ハれ^ハ葉^ハの^ハさ^ハぐ^ハお^ハ束^ハと^ハが^ハむ^ハり^ハぬ^ハる

○オレモ夏ノ間^ハハイレコサウニ 暑イニヨツテ^ハ独寝^ハヲ^ハス^ハト 人^ハナ^ハニ^ハ云^ハテ^ハマ^ハギ^ハラ^ハカ
レテオケ^ハレ^ハ 冬^ハニ^ハツ^ハテ^ハヤ^ハウ^ハニ^ハエ^ハイ^ハ夜^ハ独^ハ寐^ハル^ハノ^ハハ 何^ハト^ハモ^ハエ^ハヤ^ハウ^ハガ^ハナ^ハイ

年^ハ中^ハ奥^ハ

さきもれ今ハもつふぬりぬとば 束ふうらでハつきぬりうらむと
○あつ^ハヲ^ハモ^ハウ^ハ今^ハデ^ハハ^ハハ^ハツ^ハク^ハナ^ハコ^ハト^ハニ^ハツ^ハテ^ハ 夜^ハガ^ハフ^ハテ^ハカ^ハラ^ハデ^ハナ^ハケ^ハレ^ハバ^ハ ち^ハサ^ハリ^ハヤ^ハク
ガ^ハデ^ハケ^ハヌ^ハス^ハワ^ハイ 二^ハの^ハウ^ハぬ^ハと^ハバ^ハと^ハつ^ハふ^ハて^ハふ^ハを^ハり^ハク^ハ 日^ハふ^ハな^ハり^ハぬ^ハと^ハを^ハ。

月のおききよの池のこもむらさきのふゆり。あけさけにわがらば。

たのおいさうらぎ

おほらうらむらさきのこもむらさきのふゆり。あけさけにわがらば。

○吉野山ハ^ハ外^ハ 山^ハガ^ハヤ^ハレ^ハレ^ハ 日^ハナ^ハリ^ハ吉^ハ野^ハ山^ハハ^ハオ^ハロ^ハカ^ハナ^ハリ^ハ 夕^ハト^ハヒ^ハソ^ハナ^ハガ^ハ唐^ハ天^ハ

笠^ハノ^ハ吉^ハ野^ハ山^ハノ^ハオ^ハク^ハヘ^ハコ^ハモ^ハツ^ハヌ^ハト^ハ云^ハテ^ハモ 我^ハハ^ハち^ハも^ハニ^ハシ^ハテ^ハ 跡^ハニ^ハ跡^ハツ^ハテ^ハ居^ハヤ^ハウ^ハト^ハハ

おハヌ ド^ハコ^ハニ^ハテ^ハモ^ハア^ハト^ハラ^ハシ^ハタ^ハウ^ハテ^ハオ^ハツ^ハカ^ハケ^ハテ^ハユ^ハカ^ハウ^ハト^ハサ^ハ思^ハウ

なうき

あつとれぬあさまれ山乃らさまや人の心成えてそやまめ

○何^ハゾ^ハ氣^ハニ^ハイ^ハラ^ハヌ^ハガ^ハア^ハツ^ハテ^ハ ワ^ハレ^ハニ^ハ息^ハヲ^ハ止^ハム^ハト^ハラ^ハナ^ハラ^ハ コ^ハチ^ハノ^ハ心^ハヲ^ハト^ハツ^ハラ

リ^ハト^ハ足^ハ定^ハメ^ハテ^ハ上^ハテ^ハコ^ハソ^ハヤ^ハル^ハサ^ハラ^ハ止^ハメ^ハタ^ハガ^ハヨ^ハイ 上^ハキ^ハノ^ハカ^ハツ^ハテ^ハアル^ハ山^ハノ^ハヤ^ハウ^ハチ

モノデ コチ心ハドウチヤヤラ知ハスイニ カルビシウをるヲ止メタノハ一戸
三 アリケシカラヌキモノツブレタフヤノ 人々あじけりてはるる
ぬいほじ。 銘材。 絃々のでりどし備はるし。 折交。 けさほの流るる。

伊勢

難はあもねがくねももはるるなり今ハ疵才減るあくとへむ

○今ニデハ何シテモルウウテニウメ物ヲバ 難はノ長柄ノ槍ニメトメヤガ
ソノ柄ノ槍モ 今更新シウ出ルメヤ スレヤヤウニ人ニアカレテ奮イ
物ニナツテニウメワレガ身ヲバ モウメハ何ニメトメウゾ ナニモ壁ル物モナイ

よみ人さへげ

まをねもどなふぞいよきくかろやねみきてつとあきくしあ

○オレハ^{ビツチ}堅^{カク}ウ身ヲ指ツテドモ 何ノエイミガアルゾ ソレデモナシ
ニモエイフハナイ 世^{カク}る人ハ^{カク}乱^{カク}レタヤウニ乱^{カク}レテハウラツナ者モアレド
ソレデモサノミウレイトモナイ スレヤ実^{カク}ニメナムブガソシヤ

おきこせ

何ッそのぬれぬれものきくかろきりてまらわはれむらりうの

○ナノソノ名ノメツツガラレカラウ 志^{カク}ラスレバ名ガメツトレリナカラ迷^{カク}フハ
オレヒトリカ オレバカリチヤナイ 皆サウチヤ

いと形りきりてふよふ人のひひくば
此河あはれいふそがいにしる男はるるあひて
を或人のきりてはるるきつとふふいひくばよき入て

○イロくノ歎キが山やウニツモツバヤ、庄スバヒタモノニツ臂杖ヲツイテツヅリヲ頓カク
ケルヤウニサセワイ 木とてあてふまゝてこそが杖をつくまをさす

よみ人さうじ

なまじれをばあはれつゝして何しむきれはじろくしあゝおろねづるおろ

○意ユエニヤウニ歎キバツカリガツモツテニウツカヒモナイコニナルデアラウニ思ハル
人らあゝと涙まきあゝあひむしあゝおきこゝろわびかりりれ

○まゝのヲニテウメヤウニジュツナイ意ヲシテソニツイアハレト云時、モナイハサニ
モ難キナコデコソレ 楞パツと高をふまゝとをむしつゝと

よひ乃ちあおて入ぬ。みる月おと控くものあゝらあもつるお

○上 コノゴロハニアサテモくワリナイ物也ヒラスルコナ

そゝおとてとまればかゝこかくまればあつひつゝおあまきぎゝるまふ

○ドウシタガヨカラウカカウシタガヨカラウカト レウチシテ定メニクイコヲイロくニ思案シ

テモテ ヨイレタシヲツビツイテ サウヤト定メテ 二も登リニスレバ又一方ニサシカマ

ツカエガアリ 又思案ヲカヘテシテ見レバ 又一方ニサレツカヘルコガアリ トカク世中

ノコトハ 一^四アドウモナラヌモノチヤ 一^五一^一カガヨセバ一^一カガワルツテ 三の句は下

ふまわりとてあゝとをさへてんはべし。上おろりせしてけ何をともがらあし。

詠材とあり。但しそゝおのほおたゝあまをさす。ハあまの。こゝろ。

世の中おろねづるまふをなまじらふにあらまほしくなりおろ

○世中ノウイ、なゴトニコトハくトモウテ 人が身ヲナゲヌナラ 死骸ガオビタニシウツモツ

テ 深イ谷ガサ 浅ウナデアラウワイ けヤウニウイコノ多イヨノ中ナバ

ヤラレテ 人がタレテモオレバスキモノヤクト云 寝きと好色とを

法をふくかひおたるは 供養ノ所ニ 心乃かしふ

まきぶらふて成歌よてよむを結く

みつ

とびらふすーらねきまきま 何むきまのういあるりあやハ何ぬ

○猿ヨソノヤウニ難儀サウニアリナクナイ 今日ハけ魚リニおクモ法皇極

ノ湯幸ガアツテ け山ノカウテアルカヒガアデハナイカ アリガタイ日チヤゾヨ今日ハ

歌ーらむ

よも人ーらむ

芝成りしこのむふまよりてうつろいぞをねあさねきぬあり

○此衣ハ世ライトウテ一所不住ノ傍ノイッテモトコナリトユキカ、リニ木ノカゲへ

立ヨツテハ 葺ナドモトカツイソノ、デ寐ル 五倍子染ノ麻ノ衣デゴザル

うつろいしハ 神代紀ハ全剃と云ふ全と日ドくて、そのあおて臥

まいふまろ福といふ日ド、うつろいふ臥、ハ何んビ又チヌハ五

倍子、うつろあゝ抱きあふうつろいといふと何んいふと

全臥を五倍子といふけ、かてこそ、俳諧ハ五倍子

古今和歌集卷第二十巻後

大歌取湯歌

おろたろひのう

○巻後六

○五十四

何れしき年姑ぢい老ふかろくそふ年をうけてもの記をへえ
○行末千年^四デモ 毎年トシ始^三ハけ^三ニサヌノイ事ヲ^三念^三カニシツ
クサウワイ 老へ^三ハ^三終^三め^三ふて^三極^三む^三じ。 先^三老^三の時^三ハ^三ふ^三年^三まで
と^三とい^三ち^三ひ^三て^三か^三く^三の^三ど^三ろ^三の^三あ^三を^三は^三む^三とい^三つ^三じ。

日本紀より後之より先代ナガサ
ぬまきやまをまひらう

ふもくゆあづき山よりあまをたまかく時なくおまゆり

○一 葛城山ハ冬ハ雪ノフラヌ^二ト云ハナイガソノ葛城山ノ雪ノトホリデワレハ
イツト云^二ヲモナレ^二ニ^二ジャウヂウ君ノ^二ツガ^二思^二ハレ^二テ^二サ^二テ^二モ^二忘^二レル^二ヒ^二ノ^二ナイ^二ヲ^二カ^二チ
あふこぢり

何れしき年姑ぢい老ふかろくそふ年をうけてもの記をへえ

○近江カラ今朝^一夜ノ内ニ^二ツツテ^二ク^二バ^二ウ^二子^二ノ^二野^二ニ^二ア^二レ^二鶴^二ガ^二サ^二ナ^二ク^二ワ^二サ^二ア^二夜^二ハ^二モ^二ウ^二ア^二ケ^二ル^二ツ
みぢぐきふらと

みぢぐきふらと

○山城^一國^一ノ^一け^一岡^一屋^一縣^一テ^一妹^一ト^一オ^一レ^一ト^一寐^一テ^一夜^一ノ^一ア^一ケ^一タ^一今^一朝^一ノ^一ア^一ノ^一霜^一ノ^一フリヤウ
ワイノア アノ霜ヲ^二見^二レ^二バ^二 昨^一夜^一ハ^一キツウ^一ヒエ^一ヌ^一サ^一ウ^一ナ コチハ^二人^二子^二タ^二デ^二ソ^二ホ^二ド
ヒエル夜^一ヤ^一ト^一モ^一思^一ナ^一シ^一ニ^一ア ぬまき^一ハ^一ま^一て^一是^一の^一枕^一河^一ニ^一別^一カ^一考^一ス^一リ
又^一た^一ふ^一を^一を^一を^一形^一とい^一つ^一と^一さ^一ふ^一なり。 并^一才^一ヨ^一リ^一も^一彼^一説^一の^一こ
ろ^一ハ^一正^一の^一ゆ^一縁^一テ^一折^一け^一ぬ^一ど^一ろ^一で^一ハ^一う^一ね^一い^一ぬ^一こ^一じ。
子^一秋^一云^一じ^一み^一ぢ^一ぐ^一き^一の^一ま^一を^一へ^一
む^一う^一ま^一ふ^一く^一ま^一り^一こ^一じ。

まふまぬくまび乃中ふあびふきるわそ谷川乃喜れさやうと

此のハ義和の侍オホニハのまびのまはあ。千秋おんべハ大嘗のわをき候より

みよささや久保れさういさうくふらが名をこそとてあ代やであ

こまのあはをの侍で乃あ他あのい

みのくまはれあざ川くえぞして君につうへむようがよまでに

あまのえあのほをれみのい

君がまをかざりもつじもあはれまをさあれあはまはらとと

こまハ仁和乃ほべのいせのあはう

あまをれらあぬい

近所のやがくこは山越えそと後バのてぞるあ君がちらとせあ

あまは今上れ侍へのあま乃う

東歌

みちのくい

あめらるふあふらちあふりあきぬとも君をばやらど侍てはまあ

○アノアラク川へあがズウツトミテ夜がアチナリに君ヲバヤルイゾイナセテ又見エル

ニテ待ツアヒガドウモナラヌ まじあ 物ニウハくはあのあまきのみあり

あま河のうねりももかのはのまをうばりあはれといふてハ

あまむ 飯村よりあふあを人よあふよせてといふもあは

みちのくハツグくハあまど塩がぬれうらぐ船乃侍あでかあも

○奥州ニハドコニモカシコニモ面白イ取ハオホクアレドモ 中デモ付塩電ノ

浦ヲアレ綱手デ船ヲ引テユクアノケレキガ ドウモイヘタ物デハナイ オモ
ハシロイコトチヤワニア
コガセコバみやこりやアそし塩がめあまがはの崎乃ま川ぞあーき

○コチノ人ヲ京ヘヤツテ 留守チウ イツモドラルコヤラト 三四 待テ居ルバ

サテモあし

をくらざにみ川乃ころはの人あぶ都のほふつざといをまー城

○アノ黒崎ノミツノ小嶋ガ人ナラ 京ヘノミヤゲニイザおイトムテツレテイナウ

モノヲ ころざのをいをまつせぬのをあてふ海とつあ地名シ

みさあしひはくさとまろせふ城望は本乃下あはぬりたまはれ

○は侍^{オサレヒシウ} 是^{オカサ}は笠トヤ上^ケサツシヤレ けあ城望ノ木カラオチルあハ ケシ

カラヌモノデ 雨ヨリモキツウヌレニスゾエ

せがと川のせとばらざいあぬのいあふもつらばあの月をかり

○上^ウイヤデハナイがけ月中^チハドウモナラヌ

のせとばらざいのせもつらばらざいもつらばら

君をおきてあざい心をとがりとばあはす川山伝もこえあむ

○ドウミツガアツメトムテモ オヘヲオイテワレハ外ヘ心ヲウツスコデハナイ モレソシ

ナハフワレガ持ツメラ アノ末ノ松山ノ文ヲ浪ガコエルデアラウ ソチヲハナイ

チヤハサテ 末の松山といつハあそとつあ取乃松山あべー

さかき

ふくらぎの破らからあらしをみつむをばしぬくはあ仲ふをばし

○を後六

五十八

○小ヨロギノ後へ出テ居テ 破葉ヲツムアノ子孫ガ アレクハニレル 復ヨコレヤ

ソノヤウニアノ子孫ヲヌラスナ 沖ノ方ヘ折レヨ 又ハ 立テココニ沖ノ方ニ居レ

まをハ^折まをよまをまべー 又信のまをまをいへを 信とまをまべー

おとちう

信くを^信福乃このとかのいふ信を何と君がみうまふや 信をま

○筑波山ノアチラウラモコチラウラモ 木カゲハ オビタニシウシゲウアレドモ 君ノ

は 薩ニニサツタカゲハナイ

つくは^信福のまをまもみぢ柴おちつたりまもまもぬりおべてかきーと

○はツクハ山ノおれおノチツテツモツタラニレバ 惜^おウ大ニニ思ハルガ テウドけおれおヲ

おウトホリニ け常陸ノおノ内ノ百姓ハ ドレカレト云へガテナニニコトぐノ フビニニ

大切ニ思ハルコトヨニア 上ハ 信のまをまかきーといふへりくるまふとへじ

まもまもまもぬりおべてとつお河を 上ハ 信のまをまのまのまへを

おづくおづ此およくまをハまもまもまべー 上ハ 此お何人乃いりお

るるおよまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

べてとハおわりまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

か

うひがひをよやふもえーがきりきりよとくぬきさやの中山

○甲斐が嶺ヲハツキリトスエヌ アノサヤノ中山ガ ヨコタワツテアルテ

ツカヘテ ハツキリトスエヌ アノ心ナイサヤノ中山チヤ

○秋云の白のふせとを
照ぼふ一和ふくせとを

一本にこせるともつるより
海をるべとせむニつら内ぞ甲斐
るるとふせむハヤとせむ
誤まるよりハあつとせむ

甲斐が根を糸こーいー吹風を人ふもかやあつてやらむ

○峯ヲコシ山ヲコシテ甲斐が根ヲ吹テコエル風ヲ ドウゾ人ニシタイ物チヤナア

ソニタラ京ヘコトツケテヤラウニ

けあも京より下り居るまの目

あどのよあつたべー。照ぼふとがあ登ー。上るみるのくさー。

みやこのほろかきとつるも。京人のとてを笑しと。 飯村の説を。
かひがひをといふを。もどにうらむ。又まねも。上るまふよりて
つるあまど。此よりハトーねー。

いせう

まの浦ふくえはくあひあるはし乃あまもねんはも孫てかきとを

○上ナルナラザルハトモカクモ アナニデアラウト イツヨニ寐テハナレテセウ

わるとハ父母ねんもゆりて。照ぼして。主婦とねんもね。成就するさつあ。

あねうとねあつりのう

藤原、敏新、新在

ちりやふかものやー海の娘小松ようがよめとを色はうらうらじ

あし林^ニ花^ニ本^トそく^ニな^ニび^ラ書^キ入^レの^ニ雲^ヲ滅^ス哥^ノ今^ノ別^ニ書^クえ^テ
おき^十物^名記

むぐぐー

けくゆん

そふ人もあまひくらーけく^レひ^キま^レち^ハ乃^ヤあ^ガむ^コよ^ビま^ヨむ^マり

○拙人が材木ヲヒクサウナ アレコ^トが^キツウ^ヒイ^テ大^セイ^ノ人^ゴ工^ガス^ルワ

在^リ野^ノ下^ノ空^ノ際^上

くらおん

か^レめ^レと^モ何^をう^とま^レま^レま^レきて^も見^むく^ハほ^の衣^とむ^りふ^ー抱^き

○死^ニが^人ノ^魂が^ソラ^ヲ飛^ビテ^又カ^ツテ^本テ^モ 何^ヲ見^ヤウ^ヅ 何^モ見^ル物^ハ

ナイ ジ^ンノ^死骸^ハヤ^イテ^ヒウ^テ灰^ニナ^タタ^モノ

そく^くま^るれ^本交^り下

くまのおも

けくゆん

あし^時と^らし^つき^とバ^タグ^との^おも^うま^ふの^もろ^くろ^ろか^邪

○ユ^フカ^タニ^ナレ^バ ア^ノ今^ゴロ^ハお^ウ人^ノ本^タジ^ンチ^ヤガ^ト 意^シウ^ムフ^テ居^レバ

其人^カヒ^タス^ラ面^鏡ニ^見エ^テ サ^テモ^今コ^ノラ^{アル}ク^ヤウ^ニ足^エル^カナ

意^利下

おきのぬ みやこいぬ

まのくこまら

あま^れめて^オバ^ヤく^すり^もか^きき^ハみ^やこ^まま^べの^あま^たり^らと

○カラ^ダへ^熾火^ヲ居^テ身^ヲヤ^クヨ^リモ^カナ^シイ^ハ 京^ト嶋^ベト^ノ別^レチ

ヤワイ

下白ハ、女ハ人乃、赤らり、鴻べといふべきまき江ハ、

く、別とをいふ、ちよるべし。

かゝるく、信り、下

こそぞの、あそむ

巧や、もろ

うれめをばよそめと、ゆきぞのが、ゆき、まの、巧を、うろ、山乃、ゆき、お

○ 家々、今、世ノ中ノ、ウイ、ヲ、バト、ト、カ、テ、ヨ、ソ、ニ、足、テ、雪ノ、フ、カ、イ、山ノ、フ、モ、ト、ハ

引、銭、テ、ユ、キ、ニ、文、巧、そ、と、ゆ、く、ゆ、く、う、ろ、こ、方、集、ニ、ふ、あ、を、あ、わ、を

か、あ、あ、り、そ、と、巧、も、ゆ、く、ゆ、あ、り、そ、し、此、ゆ、流、る、は、あ、あ、り、打

ま、あ、あ、り、但、一、條、敷、と、栗、田、と、ハ、何、の、縁、も、あ、ま、地、あ、あ、る、を、信

ら、ゆ、て、歌、り、う、ろ、う、ろ、あ、あ、信、和、云、を、の、信、り、あ、り、に、う、り、そ、あ

卷中十一

奥山乃、菱の、根、あ、の、ぎ、ぬ、る、音、の、下

り、あ、人、を、う、ろ、あ、う、ろ、あ、ハ、大、井、川、あ、あ、う、ろ、あ、あ、う、ろ、あ、う、ろ、あ、う、ろ、あ

○ 今日、お、れ、が、人、ヲ、喜、シ、ウ、馬、ヲ、心、ハ、大、井、川、ノ、流、レ、ル、水、ニ、モ、オ、ト、ラ、ヌ、ク、ラ、井、ヂ、ヤ、ワイ

こ、だ、も、と、あ、あ、板、山、乃、志、の、ま、き、ほ、あ、ハ、あ、あ、も、こ、ろ、ひ、う、ろ、あ、う、ろ、あ

○ 上、ワ、レ、ハ、色、ニ、モ、詞、ニ、モ、出、サ、ズ、ニ、心、デ、ツ、カ、リ、ウ、喜、シ、ウ、馬、ヲ、ク、ラ、ヌ、サ、テ、モ、レ、ン、キ、ナ

コトカナ

オモテナナ

あーくはちをさへ業の下

ひぬくはさそ乃らあさひ^はや川^はりさとうへよこがなむらさ

○モシ人が向^上マナラ

デハナイツ 奇^キアハる^コ業の此^セ方^ハはとくれ^ルやう^クい^ハがたり

訓^ルも^ハつり^ハる^コ業^ハつら^ハい^ハと^ハを^ハ許^ス余^ノ名^ヲ告^ス奈^ハい^ハ

ち^ハお^ハるとは^ハド^ハま^ハし^キこ^ハせ^ハる^ハの^ハあ^ハへ^ハと^ハい^ハふ^ハは^ハい^ハ

け^ハう^ハち^ハる^ハ人^ハあ^ハは^ハち^ハみ^ハむ^ハの^ハら^ハあ^ハは^ハち^ハへ^ハお^ハは^ハつ^ハと

かへし

い^ハぬ^ハへ^ハの^ハい^ハそ^ハあ^ハつ^ハと^ハる

ふ^ハし^ハお^ハる^ハき^ハぬ^ハの^ハふ^ハん^ハの^ハき^ハに^ハふ^ハ人^ハ乃^ハき^ハる^ハべ^ハく^ハこ^ハが^ハあ^ハひ^ハを^ハや^ハと
オモテナナ

お^ハも^ハつ^ハて^ハあ^ハの^ハの^ハや^ハお^ハを^ハへ^ハて^ハ下

そ^ハと^ハわ^ハて^ハむ^ハめ^ハは^ハひ^ハり^ハり^ハあ^ハも^ハみ^ハや^ハお^ハは^ハい^ハし^ハそ^ハあ^ハつ^ハて

こ^ハが^ハせ^ハこ^ハが^ハく^ハべき^ハよ^ハひ^ハあ^ハり^ハさ^ハく^ハふ^ハは^ハく^ハの^ハあ^ハま^ハひ^ハう^ハて^ハあ^ハつ^ハと

○ヨヨヒハ必^ズ出^ルがアラウト思^ハル、夜^チヤ アレ^ハア^ハ蛛^ノスル^テサウ^チヤト^ムコガ

サキ^ヘヨウ^シレル^ワア 蛛^ノを^ハさ^ハく^ハふ^ハと^ハい^ハふ^ハち^ハ解^カ虫^ハお^ハち^ハ小^チき^コよ^ハい^ハ

係^ハ表^ハ文^ハと^ハい^ハふ^ハが^ハお^ハづ^ハけ^ハむ^ハと^ハな^ハつ^ハむ^ハ下

オモテ

そ^ハこ^ハも^ハつ^ハば^ハは^ハこ^ハふ^ハゆ^ハう^ハあ^ハら^ハみ^ハの^ハえ^ハは^ハる^ハお^ハあ^ハつ^ハて^ハあ^ハま^ハし^ハれ^ハる

○を^ハ後^ハ六

○六^ハ十^ハ三^ハ段

萬葉集畧解 千蔭大入著 全三冊

年々隨筆 石原先生著 初帙三冊

江戸職人歌合 同右 全二冊

臣連二造考 同右 近刻

冠位通考 同右 嗣出

宰相通考 同右 近刻

尾張の家法 同右 近刻

志と神の物語 六樹園大入著 全二冊

和名抄 大須本 全一冊

俳諧歳時記 著作堂先生著 全二冊

玉勝間四篇 本居大入著 全三冊

同 五篇 同右 全三冊

義濃の家法 同右 全五冊

同 折添 同右 全三冊

地名字音轉用例 同右 全一冊

歷朝詔詞解 同右 全五冊

葛花 同右 全二冊

參考熱田大神縁起 全一冊

萬我抄 市川先生著 全一冊

遷宮物語 菊谷先生著 全三冊

